

主題：三一の神が三部分から成る人に命となる

メッセージ 14

聖書：正しい霊を持って、命において成長する

聖書：ユダ 19-21. ルカ 9:51-56

I. 「これらは分裂を起こし、魂的であり、霊を持たない者です。しかし、愛する者たちよ、あなたがたは最も聖い信仰の上に自らを建て上げ、聖霊の中で祈りなさい。自分自身を神の愛の中に保ち、わたしたちの主イエス・キリストのあわれみを待ち望んで、永遠の命へと至りなさい」——ユダ19-21：

A. 「プシュケ (psyche 一魂) は人格の中心、各個人の『わたし』である。それは各人の中で、人のより高い部分である霊とつながり、人のより低い部分である体とつながる。一方によって上へと引かれ、他方によって下へと引かれる。低い方の欲望に身を任せる者は肉である。人の霊と神の霊との交わりによって、自分の存在のより高い目標に向かう者は、霊的である。途中にとどまって、自己と自己の利益だけを考える者は、肉の肉であれ理性的であれ、プシュキコス psychikos、利己的 (魂的) な人である。このような人は、霊が衰え墮落して、従属的な psyche (魂) に従属している」(アルフォード)。

B. 「霊を持たない」は、神の霊ではなく、人の霊を指しています：

1. 背教者は霊を欠いています。彼らは「自分の三部分性の一部分としての霊を持つのを実際にやめたわけではないが (I テサロニケ 5:23)、それを価値ある意味において持つことをやめたのである。それは墮落してプシュケ (魂) の力、個人的命の下になり、それ自身の真の活力を持たないほどになったのである」(アルフォード)。

2. 彼らは自分の霊を顧みませんし、またそれを活用しません。彼らは自分の霊によって神の霊との交わりの中で、神と接触しません。また自分の霊の中で生き、歩くこともしません。彼らは肉によって下へと引きずり下ろされ、肉となりました。ですから彼らは良心の感覚を失い (II ペテロ 2:12. 参照、エペソ 4:14-21)、理性のない動物のようになりました (ユダ 10)。

C. 祝福された三一の全体は、信者たちが聖霊の中で祈り、彼ら自身を神の愛の中に保ち、永遠の命へと至らせるわたしたちの主のあわれみを待ち望むことにおいて、彼らによって用いられ、享受されます。

D. 「永遠の命へと至りなさい」は、新エルサレムとなるという目標を指しています。「至る」は「なる」を意味します。そして永遠の命の総合計は新エルサレムです。こうして、わたしたちは霊を活用して祝福された三一の全体を享受します。それはわたしたちがキリストの中で、天上にある霊のものであるあらゆる祝福をもって祝福されて、聖なる都、新エルサレムとなるためです——エペソ 1:3-5. 啓 21:2。

II. ルカ第9章で、ヤコブとヨハネは、天から火を下して、主を拒絶したサマリア人の

村を焼き尽くすよう命じるべきかどうか主に問いました（51-54節）。しかし、主はヤコブとヨハネをしかって言いました、「あなたがたは自分がどのような霊であるか、わかっていない。人の子が来たのは、人の命を滅ぼすためではなく、救うためである」（55-56節）：

- A. 弟子たちの霊は間違っていました。なぜなら、彼らの動機が憎しみであったからです。主の霊は人の命を救う霊であり、人の命を滅ぼす霊ではありません。
- B. ウオッチマン・ニー兄弟は言いましたが、人は正しい事を行なうだけであるべきでなく、正しい事を正しい方法で正しい霊で行なうべきです。
- C. キリストのからだの建造において、わたしたちの行為が建設的で、人を成就し、有用なものであるために、わたしたちは自分が行なう事において正しくなければならず、わたしたちの方法において正しくなければならず、わたしたちの霊において正しくなければなりません。わたしたちは何かを行おうとするときはいつでも、自分がどのような霊を持っているのか自分自身に問うべきです。
- D. **霊を対処することは、霊そのものを対処することではなく、霊の通路を対処することです——54-56節。 I ペテロ3:4：**
 - 1. わたしたちの存在の最も深い部分である再生された霊は、純粹であり、汚れていません。しかしながら、霊の周りには魂と体があり、魂と体は両方ともサタンの邪悪な要素と混ざり合っており、それゆえ汚れており、腐敗しています。
 - 2. ですから、霊は出て来て魂と体を通過するとき、この汚れと腐敗によって汚染されます。このゆえに、霊が出て来るとき、それは特定の汚れ、腐敗、不純、不正、他の望ましくないさまざまな状態を帯びているのです。
 - 3. わたしたちは、霊に付いているものの特徴によって、霊の特徴を判断します。わたしたちがどのような種類の人であるかが、わたしたちの霊が帯びる特徴がどのようなものになるかを決定します。わたしたちの霊が解放されるとき、それがわたしたちという人の味わいや色彩を表現します。こういうわけで、人の質は、その人の霊の質を決定するのです。
 - 4. 霊を対処する実際的な方法は、すべての混合を罪定めして、聖霊の力によってそれらを取り除き、率先して十字架を適用し、わたしたちの肉、自己、天然の構成、心の目的、目標、意図、好み、動機などを含む、霊の通路を十字架につけることです——ローマ 8:13。
 - 5. 神はわたしたち周辺のすべての環境と事柄を案配して、自己を対処し、自己を破壊します。このようにして、聖霊の管理によって、わたしたちの霊の質は高められ、純粹にされます—— 28-29 節。
 - 6. すべての兄弟姉妹が、質において優れた、卓越した、純粹な、重みのある、高貴な霊を持つなら、彼らは互いに供給し合い、召会は豊かになります——参照、ダニエル 5:12; 6:3。
- E. 追い求める聖徒は、霊の中で貧しく、純粹な心であるべきです——マタイ 5:3, 8。

イザヤ 66:2 :

1. 霊の中で貧しいことが意味するのは、わたしたちがへりくだっており、自分が何も持っておらず、何も知らず、何もできず、何者でもないことを認めているということです——参照、ガラテヤ 6:3。
2. 霊の中で貧しいとは、わたしたちの霊の中で空にされており、わたしたちの存在の深みを占有しているものを何も持っていないことです。純粋な心とは、動機と関係があり、それは目的において単一であり、神の栄光のために神のみこころを成し遂げるといふ単一な目標を持つことです—— I コリント 10:31。

F. わたしたちは堅固な霊を持たなければなりません——詩 51:10 後半 :

1. 堅固な霊とは、動かされず、揺り動かされず、堅く安定したものとして絶えず立ち続ける霊です——参照、I コリント 15:58。
2. ダビデは悔い改め、復興のために祈っていたとき、彼の内にある堅固な霊を主が新しくしてくださるよう祈りました。
3. わたしたちは堅固な霊を必要とします。それは常に堅く、安定しており、動かされず、揺り動かされないものです。そうすれば、わたしたちは決して試みられたり、誘惑されたり、誤って導かれたりすることはありません。

G. 悔い改めた信者は喜んで従う霊を持っています——「あなたの救いの喜びをわたしに戻し、喜んで従う霊をもってわたしを支えてください」——詩 51:12 :

1. 信者として、わたしたちは主の事と召会の事に対して、喜んで従う霊をいつも持つべきです。
2. 主の權益の事において喜んで従う霊は、救いの喜びにかかっています。わたしたちは救いの喜びを持つとき、自然に喜んで従う霊を持って、主について行きます。主が欲するもの、主が願うもの、主がわたしたちに求めるものに対して、わたしたちは喜んで従う霊を持って答え、従います。
3. わたしたちは神の霊の中で喜びを持つとき、主を喜ばせることができることを何であれ喜んで行ないます——ローマ 14:17。

H. 詩篇第 51 篇 17 節前半で、ダビデは言っていますが、神の求める犠牲は砕かれた霊です。

1. 砕かれた霊は、悔い改めて、どんな罪悪に対しても非常に憂い悲しみを感じる霊です。言い換えれば、砕かれた霊は、真に悔い改める霊です。
2. 砕かれるとは、完全でないことを意味します。その意味は、あなたが自分のことを完全である、完璧である、全体的であると考えないということです。あなたの霊が悔い改めているとき、あなたの霊は砕かれ、悔いて、憂い悲しんでいます。

I. わたしたちは、柔和で穏やかな霊を持つ必要があります :

1. I ペテロ第 3 章 4 節は、わたしたちの心の隠れた人は柔和で穏やかな霊であると言っています。ガラテヤ第 6 章 1 節は、わたしたちは墮落した兄弟を柔和の霊の中で挽回する必要があると言っています。I コリント第 4 章 21 節で

パウロはコリント人に、彼らの所へ杖をもって行くのと、柔和の霊の中で行くのとどちらを望むかと尋ねました。

2. 「柔和な人たちは幸いである。彼らは地を受け継ぐからである」——マタイ 5:5 :
- a. 柔和であるとは、この世の反対に抵抗せず、進んでそれを耐え忍ぶことを意味します。この世の道は、争い、競い、他の人を打ち負かして、いくらかの財産や相続を得ることです。
 - b. 状況がどうであれ、わたしたちは柔和であるべきであり、他の人たちと争うべきではありません。柔和とは、自分のために争わないことを意味します。

J. 神は、霊が悔いてへりくだった人と共に住むことを願っています——イザヤ 57:15. 66:2. 参照、箴 16:18-19 :

- 1. もしわたしたちが霊の中で悔いてへりくだっているなら、わたしたちは霊の中で砕かれており、神の臨在を享受することができます。そのとき、神はわたしたちと共におられ、わたしたちと共に住んでさえおられます。
- 2. 「まことに、高く上げられ、永遠の中に住み、その名が聖である方はこう言われる、『わたしは高くて聖なる所に住み、また、霊が砕かれた（悔いた）へりくだった人と共に住み、へりくだった人の霊を生かし、砕かれた（悔いた）人の心を生かす』」——イザヤ 57:15。
- 3. 「エホバはこう言われる、『天はわたしの座、地はわたしの足台である。あなたがたがわたしのために建てる家はどこにあるのか？ また、わたしの安息の場所はどこにあるのか？ これらすべての物は、わたしの手が造ったものであるので、これらすべての物は存在しているのである』とエホバは告げられる。『しかし、わたしがみつめるのはこのような人である。すなわち、貧しく砕かれた（悔いた）霊の者、わたしの言葉におののく者である』」—— 66:1-2。
- 4. 神が持つことを願っている住まいは、神が入ることのできる一群れの人々であり、それは悔いてへりくだった霊を持つ一群れの人々です：
 - a. 神は宇宙に一つの住まいを持つことを意図しています。それは神と人のミングリングであり、その中で神は人の中へと建造され、人は神の中へと建造されます。それによって、神と人、人と神は互いに相互の住まいとなることが出来ます（ヨハネ 14:2, 20, 23. 15:4. I ヨハネ 4:13）。新約において、この住まい、この家は召会であり、それは信者たちの霊の中にある神の住まいです（エペソ 2:22）。
 - b. この宇宙的な建造、この宇宙的な家の究極的な現れは、新エルサレムです。この都の中で、神は人の中において、人を神の住まいとし、人は神の中において、神を人の住まいとします——啓 21:3, 22。